

## 会議録

会議の名称	平成30年度 第6回西東京市文化芸術振興推進委員会
開催日時	平成31年3月26日（月） 午後7時から午後9時まで
開催場所	保谷庁舎 別棟B・C会議室
出席者	委員：廣瀬委員長、田中副委員長、青木委員、田邊委員、中平委員、中村委員、中野委員 （欠席：葛西委員、島田委員、藤井委員） 事務局：田中文化振興課長、栗林文化振興係長、圓田文化振興係主事
議題	1 第5回西東京市文化芸術振興推進委員会会議録（案）の確認 2 第2期文化芸術振興計画について 3 第2期文化芸術振興計画概要版について 4 「平成30年度施策・事業評価（平成29年度分）」調査結果について 5 その他
会議資料の名称	【当日机上配布資料】 資料1 第5回西東京市文化芸術振興推進委員会会議録（案） 資料2 第2期文化芸術振興計画 資料3 第2期文化芸術振興計画概要版
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>1 第5回西東京市文化芸術振興推進委員会会議録（案）の確認について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局より、資料1に沿って、前回の委員会会議録について説明を行った。（意見なし、了承）</li> </ul> <p>2 第2期文化芸術振興計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局より、資料2に沿って、第2期文化芸術振興計画について説明を行った。</li> </ul> <p>○委員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10ページのまち・ひと・しごとの図の色はモノクロでよいのか。</li> </ul> <p>○事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「西東京市まち・ひと・しごと創生総合戦略」から引用しており、今回新たに作成した図ではないため、色を合わせてはいない。</li> </ul> <p>○委員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料編の色もカラフルにしていた方が良かったのではないかと。</li> </ul>	

○事務局

- ・資料編として色は控えめに設定している。

2 概要版について

- ・事務局より、資料2に沿って、概要版について説明を行った。

○委員

- ・概要版はタイトルの下に「概要版」と文字が入っているだけだが、計画書本編と区別するため、四角の枠の色を分けたほうがよかったと思う。

○委員

- ・ベジタブルインクは食品をインキとして使用することを良しと思わない人もいるが、市として率先して使用しているのか。
- ・古紙パルプ含有率70%の再生紙を使っているが、最近ではF S C認証という木材を使った分だけ木を植えていくような管理された森林から生まれた紙を使う例が多く、F S C認証に移行している自治体もあるようである。

○事務局

- ・ベジタブルインクや古紙パルプの配合については、現在の市の環境ガイドラインに沿って作成している。本計画でも古紙パルプ含有率70%を確保した再生紙の調達が難しい状況であったようだが、今後は、現状に即した形に変更していくことになると思う。環境ガイドラインの所管課である環境保全課に情報を共有させていただく。

4 「平成30年度施策・事業評価(平成29年度分)」調査結果について

《基本方針3「伝統文化等の継承」－施策1 文化財の保存・継承と活用 ⑨》

《基本方針3「伝統文化等の継承」－施策2 地域の伝統文化についての検討 ⑩》

○事務局

- ・現在、伝統文化等継承事業補助金は、どんど焼きの3団体、田無ばやしの1団体、昔、農作業の麦打ちを行う際に歌っていたという「ぼうち唄」の継承活動を行っている1団体の計5団体が対象となっている。

○委員

- ・伝統文化とはだいたいどのくらいのものをいうのか。

○事務局

- ・明確な年数は定められていないと思うが、50年ほど地域に根付いているものではないかと聞いている。

○委員

- ・年数などの時間だけでなく地域性もあると思う。西東京市の地域に根差したものが対象となるのではないか。

○事務局

- ・西東京市で培ってきたものを伝統文化として位置付けている。どんど焼きは広い地域で行われているものだが、市内でも長年行われており、他の2つは地域独自に伝わってきた文化である。

○委員

- ・地域に根差した活動が今後も継続していけるとよい。

○委員

- ・昔あった文化で新しく見つかったものや復活させたようなものも対象となるのか。

○事務局

- ・地域で継続した活動となり、後世に継承していく取組については支援していきたいと考えている。

《基本方針4「文化芸術を担う人づくり」－施策1 文化芸術を支える人材の育成と仕組みづくり ⑪ 》

○委員

- ・【4-1-1】 【5-4-2】の「保谷こもれびホール」に2か所誤字がある。

○委員

- ・【4-1-1】の会場係ボランティアは市民の公演でも可能なのか。主催者となっている団体は自分たちが出演するため、案内係などの手配に苦勞されている話を聞く。他の団体に協力してもらっていたりすることなので、団体からの要望があればボランティアの活躍の場の一つとして、協力いただく仕組みがあるとよい。

○事務局

- ・基本的には、市の事業および、保谷こもれびホールが主催するもので活動いただいているが、今後の検討課題とさせていただく。

○委員

- ・学校でもボランティア活動を推進している動きがあるため、社会教育課や教育委員会と連携した取組ができるとよい。

○事務局

- ・市民まつりなどでは保谷高校などに協力いただいているが、授業の一環で来ていただいているため人数も多く、子どもたちの取りまとめや仕事の割り振りなどが難しいことも課題となっている。

○委員

- ・仕事の役割としてだけでなく、子どもたちの経験を目的としても取り組んでいけるとよいと思う。

○委員

- ・大学への働き掛けはあるのか。

○事務局

- ・武蔵野大学とは包括協定を結んでおり、市民まっりの映像作成では、武蔵野大学の放送研究会の方に協力をいただいている。その他、対話による美術鑑賞では武蔵野美術大学に協力していただいております、事業の内容に合わせて連携や協力をいただけるように図っているところである。

《基本方針4「文化芸術を担う人づくり」－施策2 文化芸術を支える人材の活用 ⑫》

○委員

- ・ホームページによる課題が多いようだが、現時点で何か検討している対策や方針はあるのか。生涯学習は高齢者が多い傾向であるため、ホームページの情報発信よりも紙媒体の強化、あるいは、スマートフォンでの情報発信の工夫をした方が効果的かと思う。

○事務局

- ・所管課である社会教育課に意見を共有させていただく。

《基本方針4「文化芸術を担う人づくり」－施策3 青少年や高齢者の文化芸術活動の支援 ⑬》

○委員

- ・【4-3-1】の「パフォーマンス笑翔show」はどのようなイベントなのか。

○事務局

- ・中高生がダンスやパフォーマンスなどを行っている。

○委員

- ・プロの方も呼んでいて面白い取組である。

○委員

- ・【4-3-2】で老人会は閉鎖的な部分があると聞くが、高齢者クラブは協力的なのか。

○事務局

- ・現在、高齢者クラブは50団体程あり、団体によって活動や性格は異なる。他団体と積極的に関わる団体もあれば、既存のメンバーのみで固定されている部分もあると思う。幅広く関わりを持っていただけるとよいという意見があったことを高齢者支援課に共有させていただく。

○委員

- ・【4-3-2】の高齢者いきいきミニデイ事業にある「街中いこいなサロン」はどこで実施しているのか。

○事務局

- ・介護保険法の改正により28年度から実施している取組で、活動していただけるサロンを募集し、活動に対して補助金を支給している。高齢者をはじめ、多くの方が様々な形で関わりを持つことで交流の機会を設けている取組である。年々取組が広がっており、現在20箇所ほどで開催されていると思う。

○委員

- ・放課後カフェは文化的な活動には含まれないのか。

○事務局

- ・事業計画の中で文化的な要素を入れることもできると思うが、現在では文化に関わる取組には入っていない。

○委員

- ・民生委員が中心となって実施している取組であり主な趣旨が異なると思う。

○委員

- ・包括支援センターでも文化活動を行っていると思うがここには入っているのか。

○事務局

- ・包括支援センターは市内に8カ所あり、各6～7名の職員体制で1カ所5,000名程の高齢者の様々な相談や支援を行っている。文化活動というよりも基本的な支援が目的である。高齢者が元気になるために、文化芸術に関する情報を伝えていくことはできると思う。所管課は高齢者支援課である。

○委員

- ・ミニデイは今後、増やしていく方針なのか。

○事務局

- ・家に閉じこもりがちな方をサポートする目的で始めたミニデイよりも、元気な方もそうでない方も含めて、様々な方が関わる中で事業を行う方がより現実的であるという考えにより「街中いきいきなサロン」を増やしていく方針だと聞いている。

○委員

- ・民生委員として関わっているが、高齢者に対して、認知症対策の文化的な取組があればよいと思う。
- ・男性向けのミニデイがなく、女性に比べて参加したがる傾向にある。会社のような仕組みでスーツを着て、社会貢献できるような仕組みを作ると面白いのではないか。

《基本方針5「交流による活動の拡大・活性化」－施策1 活動団体の交流機会の創出  
⑭》

○委員

- ・【5-1-1】ヤギフェスの実行委員会として関わった。12以上の団体が参加し、その場

で音楽を作曲するなど面白い取組を行っており、公民館の事業としても大規模である。市の職員にも見に来ていただきたい。30代から70代くらいまで幅広い世代の方が参加している。

○委員

- ・【5-1-1】の谷戸まつりも大規模に行われており、人気がある。

○委員

- ・谷戸まつりは公民館の祭りではなく、地域の祭りである。

○副委員長

- ・活発な活動については、実績の欄に参加団体数などの記載があると規模感が分かって良いと思う。

○委員

- ・公民館はどこに属しているのか。

○事務局

- ・社会教育課が関わっている。

○委員

- ・【5-1-2】の市民会館はいつまで利用できるのか。今後の展開として、「懇談会を引き続き実施する」となっているのは記述として合っているのか。

○事務局

- ・今後は官民連携による施設の設置に向けて、市民会館を利用していた方などにご意見を頂く機会は継続して行う予定である。

○委員

- ・新たな施設の設置に向けてなどの補足があった方がよいのではないか。

○委員

- ・この記述は29年度のものであり、現時点の方針とは異なると思う。

《基本方針5「交流による活動の拡大・活性化」－施策2 国際文化交流の促進 ⑮》

○委員

- ・【5-2-1】の「日本の文化体験フェス」とはどのような取組を行っているのか。

○事務局

- ・市民文化祭に参加している茶道や生け花などの活動団体の方を講師として、子どもや外国人を対象に日本の文化が体験できる機会として実施している。オリンピックに向けて実施している趣旨もある。

○委員

- ・【5-2-1】の「子ども対象英語で楽しくを実施」は「楽しく実施」が適切ではないか。

○事務局

- ・「子ども対象英語で楽しく」が事業名であるため、括弧を加えて修正する。

○委員

- ・「留学生ホームビジット」、「日本語交流バストリップ」、「日本語スピーチコンテスト」、「子ども対象英語で楽しく」が事業名ということである。それぞれどのような取組なのか。

○事務局

- ・「留学生ホームビジット」は留学生が市内の家庭に1日ホームステイし、日本での日常生活を体験するものである。「日本語交流バストリップ」はバスで多摩地区を周遊し、コカ・コーラ工場見学や川遊びを通して外国人が交流する企画である。「日本語スピーチコンテスト」は市内に住む外国人が日本での生活などについて日本語でスピーチを行うものである。武蔵野大学にも協力いただき、学長賞などを設けている。「子ども対象英語で楽しく」は市内在住の外国人が講師となり、子どもたちが多言語を混ぜながら各国の遊びを体験できる取組を行っている。

○委員

- ・様々な取組を実施していることをもう少し具体的に記載していただけるとよい。

○委員

- ・評価の理由としても「実施できた」だけでなく、どのように実施できたのか補足した方がよい。

○委員

- ・【5-2-2】日本語ボランティア入門講座はどのくらいの方が受講し、ボランティア登録しているのか。

○事務局

- ・日本語ボランティアは市内に11カ所あり、外国から来た子どもなどを対象に日本語を教えたり、学校の勉強を教えるサポートを行っている。そこで活動いただくボランティアを育成する事業であり、多くの方に登録していただいているが、詳細の数値について手元に資料がない。教育指導課と連携し、入門講座は年間8回ほど開催している。

○委員

- ・ホームページなどで募集しているのか。

○事務局

- ・ホームページや市報などで募集をしている。

○委員

- ・多くの方に参加していただけるとよいと思う。

○副委員長

- ・ボランティアと参加される外国人の方、両方の数字が分かるとよい。

《基本方針5「交流による活動の拡大・活性化」－施策3 近隣市や姉妹都市・友好都市との交流促進 ⑩ 》

○委員

- ・【5-3-1】の子ども体験塾は、参加者に費用などがかかるのか。水上バスなどの体験は応募者が多いのではないか。

○事務局

- ・補助金を活用している事業であるため、参加者の個人負担はなかったと思う。夏休みの時期などは、様々なイベントが多くあるため、意外と応募者は分散されていると感じている。
- ・事業によっては保険料や材料費が必要なものもあり、民間事業者（NPO法人等）が実施主体となっている事業などについては、参加者に費用を負担していただく場合もある。

○委員

- ・子ども体験塾は年間3回程に分けて実施し、段階に応じて参加できるようになっていたと思う。

○委員

- ・【5-3-1】の「地域映画制作ワークショップ」で制作した映画は市のホームページなどで観ることができるのか。

○事務局

- ・4年間を通じてワークショップをした集大成として「つなぐ人」という映画を制作し、市のホームページから作品を観ることができるように案内している。

○委員

- ・上映会などのために貸し出しなどは行っているのか。

○事務局

- ・図書館には収蔵しているが館内での視聴のみだったと思う。

○委員

- ・様々な形で活用できるとよい。

○副委員長



・イベントなどの際に上映するなど活用するとよいと思う。

○事務局

・「つなぐ人」は映画祭にも出品し、入賞は逃したものの一次選考通過など健闘している。作品について市民にも広く知っていただきたいと考えている。

≪基本方針5「交流による活動の拡大・活性化」－施策4 市内関係機関等との連携  
⑰ ≫

○委員

・【5-4-1】対話による美術鑑賞の美術館訪問は、どこの美術館に行ったのか。

○事務局

・平成29年度は練馬区立美術館、今年度は武蔵野美術大学美術館と、授業の一環で行っているため、近隣の美術館に行っている。

○委員

・【5-4-2】にある市民映画祭事業について、最近、商店会が成り立たなくなってきたり、今後連携した取組が難しくなっている現状がある。

○委員

・地域によって差があるが、商店会によっては厳しい状況にあるため、合同での取組が難しくなっていると思う。

○委員

・仕事をしながら事業に参加するのは大変だと思う。祭礼や例大祭に絡めていると思うが、商店街自体も文化的な要素があると思う。

○委員

・ボランティア活動をすると1単位もらえる大学もあるが、西東京市は大学自体が多くない。

○事務局

・早稲田大学もキャンパスという位置づけだが、武蔵野大学との連携が多い。

○委員

・公民館事業で以前、大学まで行ってボランティアの依頼をしに行ったが、亜細亜大学の方が窓口は広い印象だった。

○委員

・学年によってキャンパスが異なると、学生の継続性がなくなってしまうことも課題である。

○委員

・武蔵野大学では、1学年以外は他のキャンパスに移動になってしまうコースが多い。

ボランティアも7月後半から8月であれば授業の一環で行っているが、他の期間は難しいと思う。

《基本方針5「交流による活動の拡大・活性化」－施策5 文化芸術分野の専門家との連携 ⑱》

○委員

- ・クラシック音楽などの視点はあるが、西東京市にゆかりのある芸能活動で活躍されている方にも目を向けて、市全体でバックアップしていく体制があると、若い世代にも関心を持ってもらえるのではないか。

○事務局

- ・30年度には保谷こもれびホールの記念事業として、西東京市にゆかりのある著名な方にビデオレターを依頼し、メッセージをいただいている。地元貢献したいと考えていただく方もいるが、スケジュールが合わなかったり、所属事務所の方針で了解いただけなかった方もいる。
- ・西東京市は面積も大きくない地域ではあるが、スポーツなども含めて多方面に活躍している方が多くいる。今後は積極的に取り組んでいけるとよい。

○委員

- ・西東京市のアンバサダーはいないのか。

○事務局

- ・西東京市も20周年に向けて検討していると思う。
- ・市役所の職員だけでは情報収集が難しいところもあり、このような委員会の場でも様々な情報をいただきたいと考えている。

5 その他

- ・事務局より、「平成30年度施策・事業評価(平成29年度分)」調査結果を調整のうえ、市長に報告し、公表させていただくことを説明した。
- ・事務局より、1名の委員が退任となることを説明した。

○委員（退任の挨拶）

- ・文化祭の実行委員長として推進委員会に参加し、前回の計画策定より10年間にわたって関わらせていただいた。第2期文化芸術振興計画の4つの効果を改めて見ると、文化芸術も社会に対して大事な要素もあったのだと感じ、大きな仕事に関わらせていただいたと思っている。
- ・文化祭は西東京市となって18年になるが、文化祭自体は合併前から、50年行っている取組である。市には運営にあたって実行委員会と共催という形でご協力いただいたが、多摩地区でもこれだけの支援をしていただいている自治体はないと思う。今後も市の文化芸術振興の発展を願っている。

以上

《閉会》